

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスバンビ（1単位 放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月1日		～ 令和7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	令和7年1月1日		～ 令和7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 15人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本人の特性に合わせた環境作り（構造化）	個人の特性や能力に合わせた環境を設定することで、先の見通しや境界などが視覚的に分かりやすく、子どもが自立して課題に取り組むことができる環境になっている。	定期的なアセスメントを行い、お子さんや保護者の方の意見を聞く場を設け、子どもたちの成長に合わせた課題を設定し実践していく。再構造化の視点を持ち、支援の見直しや次の目標設定に活かしていく。
2	職員の専門性・一貫性のある支援の実施	パート職員も含めた外部講師による専門研修を行い、職員全体の資質を底上げし、共通の認識で支援できるように努めている。	引き続き外部講師による専門的な研修を受講し、職員のスキルアップを目指す。また、OJTを通して現場での対応のスキルの向上も行っていく。
3	フォーマルアセスメント、インフォーマルアセスメント	定期に加え成長を感じた際には、フォーマルに準じたアセスメントを行い、また、日々の支援からインフォーマルなアセスメントも随時行っている。保護者からの提供によりクリニックでの心理検査の結果などをフォーマルなアセスメントとして活用している。	統一した書式を活用し、職員が同じプロセスで支援を組み立てられるようにしている。研修等も行い、特性に合わせた支援を行えるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだいへの取り組み	予定があり参加できず残念だった。日にちが合えば参加したいというご意見がありました。日程のお知らせを早くすることで、予定を調整しやすくなると思われます。	きょうだいへの取り組みは、将来、きょうだいのお子さんと同じ立場での仲間ができた、思っていることを話せる場や関係性ができればと考え、9月20日に行いました。
2	事業所のバリアフリー化	事業所が2階にあるため、駐車場から室内までのバリアフリー化が必要。	事業所が2階にあるため、階段を使用して移動する必要がある、移動時は児童と手をつなぎ安全に配慮している。
3			

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスパンピ (2単位・児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年1月1日		令和7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	令和7年1月1日		令和7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 14人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本人の特性に合わせた環境作り(構造化)	個人の特性や能力に合わせた環境を設定することで、先の見通しや境界などが視覚的に分かりやすく、子どもが自立して課題に取り組むことができる環境になっています。	今後も定期的なアセスメントを行い、お子さんや保護者の方の意見を聞く場を設け、子どもたちの成長に合わせた課題を設定し実践してまいります。また、継続して支援の様子の見学対応も行ってまいります。
2	職員の専門性・一貫性のある支援の実施	外部講師による専門研修を実施し、常勤職員だけでなくパート職員も含めて学ぶ機会を設けています。お子さまの発達や特性への理解を深め、職員全体が共通の認識を持って支援できるよう、支援の質の向上に努めています。	引き続き、外部講師から学んだ専門的な知恵を、日々の関わりの中に取り入れます。職員全員で知識を共有し、お子さまの小さな成長や変化をこれまで以上に細やかに見守り、一人ひとりに最適なサポートができるよう、さらに質を高めてまいります。
3	徹底した情報共有とチーム体制	支援開始前の打ち合わせや、職員間の迅速な連携が図られています。支援終了後も振り返りを行い、気づきをケース記録や申し送りノートに即座に反映させる体制が整っています。	活動前後の打ち合わせを丁寧に行い、日々の気づきをその日のうちに支援に活かします。スタッフ間の連携をさらに深め、常に最新の状況に合わせた最適な関わりを心がけてまいります。
4	安全管理と危機管理意識の高さ	ヒヤリハットの共有、事故・感染症・防犯・BCPの策定と周知が徹底されています。送迎時の置き去り防止ブザーの設置や、アレルギー情報の詳細な共有など、ハード・ソフト両面での安全対策が見られます。	送迎装置やマニュアルなどの「確かな備え」と、スタッフ全員の「人の目」による細かな気づきで、事故の未然防止を徹底しています。アレルギー対策や毎月の避難訓練も欠かさず行い、お子様の安全を最優先に、安心いただける環境づくりを追求してまいります。
5	小学校入学に向けた移行支援	小学校入学に向けての課題や保護者の方の悩み・ご希望をお聞きしながら、パンピでは学校生活に必要なスキルを身につけられるよう支援しています。また、ご家庭でも取り組める方法をお伝えし、移行先の学校ともお子さまの特性や関わり方について情報共有を行っています。	これまで十分に連携が取れていない学校についても、今後は情報共有を進め、お子さまの様子や支援内容について理解を深めながら、より一貫した支援につなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・社会参加の機会が少ない	安全面への配慮やお子さま一人ひとりの特性に合わせた支援を優先しているため、地域の行事や施設との交流機会を十分に設けることが難しい場合があります。また、活動時間や支援体制の関係で外部交流の機会が限られることがあります。	今後も継続して、スポーツ交流会やミュージックフェスティバルへの参加や長期休暇には地域の事業所と一緒に活動するなど、お子さまたちの状況に配慮しながら、無理のない範囲で地域と関わる機会づくりを検討してまいります。
2	保育所や認定こども園、幼稚園との交流が少ない	パンピでは園に通っているお子さまに限られた時間の中で利用されるため、その時間を大切に、個々の発達に合わせた療育の機会を優先して支援を行っています。	交流の機会については、受け入れ先となる施設と相談や話し合いを行いながら、可能な範囲で機会を設けられるよう調整してまいります。

3	保護者会やきょうだい向けのイベント、その他情報発信の周知の徹底	保護者会は11月29日に、きょうだいへの取り組みは2月13日に行いました。お便りでお知らせを行っていますが、その他の情報についても配布のタイミングや方法によっては十分に伝わらない場合があると考えています。	お便りだけでなく、ホームページやSNS（Instagram等）など複数の方法を活用し、保護者の皆様に分かりやすく情報が届くよう周知方法の工夫を行い、事前案内の時期についても見直してまいります。きょうだいへのイベントは来年度は早くに開催させていただきます。
4	ケガ・事故発生時の説明状況について	お相手がいる事案において、個人情報保護の観点からお伝えできる範囲に制約があり、状況説明が不透明に感じさせてしまう場面がありました。相手方の情報を守りつつも、経緯や対策について納得いただけるレベルでの丁寧な説明が不足していたことが、不安を抱かせた要因と反省しております。	プライバシーを遵守しつつ、事故の経緯や処置についてはこれまで以上に迅速かつ詳細にお伝えする体制を徹底します。具体的な再発防止策を提示し、日頃から密なコミュニケーションを重ねることで、万が一の際にも安心していただけるよう、より一層丁寧な対応に努めてまいります。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスパンピ（2単位・放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月1日		令和7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	令和7年1月1日		令和7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 14人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本人の特性に合わせた環境作り（構造化）	お子さま一人ひとりの特性や発達段階に合わせて環境を整えています。活動場所の区分や視覚的な手がかりを取り入れ、見通しや境界が分かりやすい環境づくりを行い、お子さまが安心して過ごしながら、自分で課題に取り組めるよう支援しています。	今後も定期的なアセスメントでお子さまの成長を確認し、個々の発達に応じた課題を設定して支援を継続いたします。保護者さまとの対話を大切に、日々の様子の見学も随時受け付けております。
2	職員の専門性・一貫性のある支援の実施	外部講師による専門研修を実施し、常勤職員だけでなくパート職員も含めて学ぶ機会を設けています。お子さまの発達や特性への理解を深め、職員全体が共通の認識を持って支援できるよう、支援の質の向上に努めています。	引き続き、外部講師から学んだ専門的な知恵を、日々の関わりの中に取り入れます。職員全員で知識を共有し、お子さまの小さな成長や変化をこれまで以上に細やかに見守り、一人ひとりに最適なサポートができるよう、さらに質を高めてまいります。
3	徹底した情報共有とチーム体制	支援開始前の打ち合わせや、職員間の迅速な連携が図られています。支援終了後も振り返りを行い、気づきをケース記録や申し送りノートに即座に反映させる体制が整っています。	活動前後の打ち合わせを丁寧に行い、日々の気づきをその日のうちに支援に活かします。スタッフ間の連携をさらに深め、常に最新の状況に合わせた最適な関わりを心がけてまいります。
4	安全管理と危機管理意識の高さ	ヒヤリハットの共有、事故・感染症・防犯・BCPの策定と周知が徹底されています。送迎時の置き去り防止ブザーの設置や、アレルギー情報の詳細な共有など、ハード・ソフト両面での安全対策が見られます。	送迎装置やマニュアルなどの「確かな備え」と、スタッフ全員の「人の目」による細かな気づきで、事故の未然防止を徹底しています。アレルギー対策や毎月の避難訓練もを行い、お子さまの安全を最優先に、安心していただける環境づくりを追求してまいります。
5	移行支援	学校で十分に理解できていない部分の学び直しを行いながら、将来的な進路や生活も見据えた支援を行っています。学校の先生からの情報も参考にし、お子さまの特性に合わせた教材を作成するなど、一人ひとりに合った支援に取り組んでいます。	これまで十分に連携が取れていない学校についても、今後は情報共有を進め、お子さまの様子や支援内容について理解を深めながら、より一貫した支援につなげてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が少ない	安全面への配慮や子ども一人ひとりの特性に合わせた支援を優先しているため、地域の行事や施設との交流機会を十分に設けることが難しい場合があります。また、活動時間や支援体制の関係で外部交流の機会が限られることがあります。	今後も継続して、スポーツ交流会やミュージックフェスティバルへの参加や長期休暇には地域の事業所と一緒に活動するなど、子どもたちの状況に配慮しながら、無理のない範囲で地域と関わる機会づくりを検討してまいります。
2	保護者会やきょうだい向けのイベント、その他情報発信の周知の徹底	きょうだいへの取り組みは9月20日に、保護者会は11月29日に行いました。お便りでお知らせを行っていますが、その他の情報についても配布のタイミングや方法によっては十分に伝わらない場合があると考えています。	お便りだけでなく、ホームページやSNSなど複数の方法を活用し、保護者の皆様に分かりやすく情報が届くよう周知方法の工夫を行ってまいります。必要に応じて事前案内の時期についても見直してまいります。

3	利用希望に対して十分な利用日数を確保できない場合がある	利用希望者の増加や定員の関係により、希望される曜日や日数での利用が難しい場合があります。また、お子さま一人ひとりの特性に対して丁寧な支援を行うため、受け入れ人数には一定の調整が必要となっています。	利用状況を把握しながら可能な範囲で利用調整を行い、ご家庭の状況に配慮した対応を心掛けます。今後も支援の質を保ちながら、柔軟な受け入れ体制について検討していきます。
---	-----------------------------	--	---